

ホームプロ・メールマガジンコラム連載

「エコで楽しむ住宅改修」 第9回

省エネ生活を実践する (実態把握、意識・判断そして行動)

エコ住宅にとって最も大切な「省エネルギー」を建物・配管の断熱、設備の効率化、自然エネルギーの活用と順追ってお話してきました。今回はその総仕上げとでも言うべき「省エネ生活の実践」を考えます。住まいの省エネが本当に達成されるかどうかは、住まい手のエネルギーを上手に使う知恵と的確な行動にかかっているのです。

あなたはご自宅での電力とガスの消費量を把握していますか？ よくある答えは「電気代はひと月に 円くらいかな・・・」というものです。エネルギー消費を費用として把握するのは、分かりやすい方法ですが、本気で省エネを考える場合は、やはり kWh (キロワットアワー) や立方メートルなどのエネルギー量、又はそれに換算できる単位で把握することが必要です。その理由は、まずエネルギーの種類ごとに単位熱量当たりの単価が異なること。また料金は基本料金と従量料金の合計である上に、消費量、用途、時間帯などによって設定される単価に差があり、同じ種類のエネルギー源でも、金額はエネルギー消費量に必ずしも比例しないからです。

さて、毎月のエネルギー消費量を知るのは難しくありません。電力も都市ガスも毎月投入される「お知らせ兼領収証」を取っておくだけで分かります。伝票をなくした場合は、インターネットでも過去の消費量を調べることができます。しかし、検針日から次の検針までの日数は、必ずしも一ヶ月ではありません。最も望ましいのは、月末日にメーターを読み取ることです。

自分でメーターを読むことで省エネ意識が高まります。電気・都市ガスだけでなく、水道使用量も調べてみましょう。読み取った数字を記録し、前月との差(消費量)と一緒に表にします。灯油・プロパンは購入日と量をメモし、使った量を推定します。パソコンの使える方は表計算に打ち込みましょう。グラフにすると季節ごとの差が分かりますし、前年と比べて急に増えたら「何故だろう」と気になります。一方、省エネの成果が数字で表されると、一種の達成感が得られます。

標準的な家庭の消費量は電力が 310kWh (関西電力) 都市ガスが 50m³ (大阪ガス) とされていますから、それとくらべてみましょう。もし「多すぎてまずい」という判断が出ればいろいろ工夫をされると良いでしょう。消費量が少な目の人は「もっと頑張ってみよう」となるかもしれませんが。生活の中で実践できそうなもののお金がかからない順に紹介します。

お金をかけない省エネ：無駄な照明を消す、暖かい衣服を着て暖房の設定温度を 17~18 にする、冷房はなるべく使わない、付け放しの電熱器(暖房便座、電気カーペット、湯沸しポット等)を使わない、など。

1箇所あたり 1000 円前後の投資でできる省エネ：待機電力をカットするために、スイッチ付きコンセントを設ける(1口から4、5口までいろいろある)。OFF にしないと小さなランプが付いています。長時間使う 60 ㉾の白熱電球を 12~13 ㉾の電球型蛍光灯に替える。

電気・ガス器具を買い替え時にできる省エネ：例えば、省エネ型ガスコンロにする。省エネ型冷蔵庫にする、高効率エアコンにする、高効率ガス給湯暖房機にする、テレビは液晶型にする、など。価格は高めですが、長期的には電気・ガス代が減りかえって安くなるはず。です。

まずは、エネルギー消費実態をきちんと把握することから始めましょう。そこを基点として、家族の協力を得て省エネ行動を実践し、成果のご褒美に省エネ型器具への買い替えが決まって、さらに省エネが楽しくなる、というような成り行きを期待します。